

令和3年1月20日
原子力規制庁

第8回実用発電用原子炉の安全性向上評価の継続的な改善に係る会合で意見交換したい主な事項

1. 確率論的リスク評価（PRA）

- ・確率論的リスク評価の結果を踏まえ、設備や手順の改善対策等を行った結果としてCDF等が改善しているのであれば、そのような事例を次回具体的に説明して欲しい
- ・前回の資料で示されたハザード・フラジリティ評価の高度化、SSHACプロセスの確立及び確立後の手法の見直しの考え方等の地震PRA・津波PRA評価手法の改善の具体的な計画及び内容を次回より詳しく説明して欲しい
- ・レベル3PRAを安全性向上評価届出で実施することについて、事業者の考えを聞かせて欲しい
- ・炉心損傷後の条件付格納容器機能喪失確率を定義・分析・評価することは、更なる安全性向上策を検討する上でも有効な手段と考えるが、事業者の考えを聞かせて欲しい

2. 被ばく評価

- ・被ばく評価の結果について、核種毎の放出タイミング、放出量、線量への寄与を届出書へ具体的に示すべきと考えるが、事業者の考えを聞かせて欲しい

3. 安全裕度評価（ストレステスト）

- ・津波クリフエッジの評価において、建屋のシール部を超えた時点で一律に水没するとしているが、今後いずれかの時点で、より現実的な評価（具体的な浸水区画を考慮する等の評価）を行うべきと考えるが、事業者の考えを聞かせて欲しい

4. 特定重大事故等対処施設の扱い

- ・特重施設導入後のPRAにおいて、重大事故等への対応に特重施設を活用する場合のイベントツリー設定等の考え方を次回説明して欲しい
- ・地震時のストレステストにおいて、特重施設の系統毎（フィルタベント、下部炉心注水等）に頑健性を把握、確認すべきと考えるが、事業者の考えを聞かせて欲しい